

研究報告書

厚生労働科学研究費補助金
(鶏肉及びその関連製品中の抗ウイルス剤の一斉分析法の開発研究事業)

(中間)研究報告書

鶏肉及びその関連製品中の抗ウイルス剤の一斉分析法の開発に関する研究

研究代表者 朝倉 敬行 一般財団法人 東京顕微鏡院

研究要旨

中国産鶏肉から抗ウイルス剤であるアマンダジンとリバビリンが検出され、わが国で新聞や雑誌に取り上げられ社会問題となったことは記憶に新しい。これらの抗ウイルス剤はわが国では動物用医薬品として指定されておらず、その残留は食品衛生上大きな問題となっている。本研究は、検出事例のあるアマンダジンとリバビリンに加え、抗インフルエンザ薬として汎用されるオセルタミビル、ザナミビル、近年、開発されたペラミビル、ラニナミビル、諸外国で使用実績のあるリマンダジンとアルビドール、さらに、その他の抗ウイルス剤として、ヘルペスウイルスに対するアシクロビル、尖圭コンジローマに対するイミキモドを加え、計 10 種の抗ウイルス剤を分析対象とした。鶏肉中から 5vol%塩酸・メタノール混液を用いて抽出後、ODS ミニカラム、強陽イオン交換体ミニカラムおよび PBA ミニカラムを用いて精製後、親水性相互作用を有する HILIC カラムを用いて LC-MS/MS にて定量する方法により多種多様の抗ウイルス剤 10 種類を分離測定する方法を確立した。

共同研究者 北村 真理子 (一般財団法人 東京顕微鏡院)
共同研究者 萩原 蒔 (一般財団法人 東京顕微鏡院)